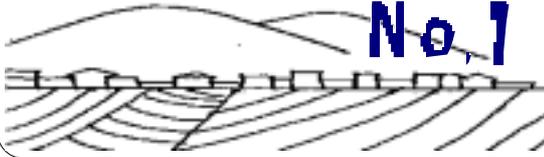


# ちいき調査 No.1



ヤマちゃん



カワちゃん

2009.01.23

京都自治労連行財政部  
TEL 075-801-8186  
FAX 075-801-3482  
E-mail kyotojchirouren  
@labor.or.jp

## 09春闘は地域調査で行こう！ 地域調査スタート学習会開く



京都自治労連では全国自治研で各単組が身につけた力を基礎に、09春闘、全単組が地域に出かけ、地域調査を進めよう。自治労連本部の「地域循環型経済・地域づくり」調査・提言活動第2次リーディングケースに積極的に応募しようと地域調査スタート学習会を開催しました。

### 「地域調査」がみんなの思いに

直前に開催された春闘討論集会でも、派遣切りや中小企業での下請け切りなど、地域の経済が壊滅的な状況になりつつある中で、自治体労働組合が「社会正義を実現していく」ことが必要性が、それぞれの単組、それぞれの仕事の現場の声として語られました。「地域調査」の方針は、執行部の思いよりもっと積極的に単組に受け入れられ、当日は約40名が参加しました。

### 地域調査は社会運動

最初講演に立った京都大学岡田先生は、構造改革の中での住民の暮らしの悪化、その中での運動の広がりや世論の変化について述べられました。そして、一口に「格差と貧困」と言うが、どの地域でも同じようにその矛盾が現れているわけではなく、科学的に認識してこそ政策が作られる。なにより調査活動自体が社会運動。地域の問題を解決する主体を育てていく運動でもあること。そして、今こそその力を大きくしていかなければならないことを、舞鶴での「かまぼこ調査」や自治労連の地域調査第1次リーディングケースの経験を引いて、わかりやすく話されました。

### 調査はたのし

統計書で調べればわかるのでは？や問題がある

ことはわかっているなどの調査活動を躊躇する声にも調査を通じて「知るたのしさ」を強調。ほんの少しの勇気で多くの人々の学びや励まし、人々との出会いが得られると私たちを勇気づけていただきました。

### 議員さんも青年も「まち研」も

続いて、この間精力的に個人や企業、団体などに経済危機や貧困の課題で調査活動に入っている日本共産党府会議員団の光永敦彦さん、青年の雇用問題をアンケートで調査した民青同盟の中川葵さん、そして「いけいけ！かまぼこ調査隊」で舞鶴でしっかり社会的地位を占めるようになった「まいづる地方自治研究所」に実践報告をお願いしました。

どの報告の中にも調査活動でしか得ることのできない、そこで暮らし働いている人の顔



が見えるリアルな現状認識や、人とのつながりが語られていました。

### さあ調査に出かけよう

京都自治労連では自治労連本部が展開する「地域循環型経済の再生と地域づくり」調査の第2次リーディングケースに手を挙げる単組を積極的に支援すると共に、課題別での調査も含め、独自に補助制度も設けてすべての単組が「地域調査」にでられるよう、学習・交流・資料提供・人的支援などを行い、「地域調査」を大きな運動にしたいと考えています。